

## 日本労働年鑑 第26集 1954年版

The Labour Year Book of Japan 1954

## 第二部 労働運動

## 第二編 労働組合運動

## 第七章 主要な労働組合の現状

## K 金融業

全金融は、全銀連、全生保、全損保、全外連、全信連の五組合の協議機関として存在するが、現状は業態上の相違からこれらの組合が直ちに統一する気運には向いていないから、限られた部面での共闘機関としての意味をもつに過ぎない。また金融、商業、事務系統で組織された労闘協が、その後八月に全商協と改称、新しい組織として発展しようとしているのは、一つの方向として注目される。

## 50、全国金融機関労働組合協議会(全金融)

港区青山六ノ一〇 赤坂(48)〇九八二、六〇〇七一八

## 役員

議長 大山敬三(全銀連)

結成 一九四七年一〇月一〇日

|    |     |        |     |         |
|----|-----|--------|-----|---------|
| 組織 | 全銀連 | 一二万    | 全損保 | 一万九〇〇〇  |
|    | 全生保 | 二万     | 全信連 | 三〇〇〇    |
|    | 全外連 | 一万三〇〇〇 | 計   | 一七万五〇〇〇 |

## 【a、銀行・信託】

銀行関係では五四行一二万が全銀連に組織されているほか、二七行一万三〇〇〇の市中銀行が未組織、他に地方銀行の大部分が未組織である。このほか、相互銀行、信託銀行、小口金融、無盡などは業態上別れているが全信連はその一部に過ぎない。

## I 銀行

## 51、全国銀行従業員組合連合会(全銀連)

The Federation of Bank Employees Unions.(F.B.U.)

港区青山南町六ノ一〇 赤坂(48)〇九八二、六〇〇七一八

## 役員(第一三回大会決定)

中央執行委員長 藤 虎彦(富士)

中央執行副委員長 大山敬三(第四)

河村周三(三和)

石沢雄四郎(千代田)

長尾忠一(富士)

書記長 前田完一(大阪)

結成 一九四七年四月一八日

加盟機関 全金融

## 活動

二月二六—二七日 第一〇回中央委員会。

五月一四—一六日 一三回全国大会。

機関紙 「全銀連」週刊、「調査時報」月刊

## II 信託

## 52、全国信託銀行従業員組合連合会(全信連)

中央区日本橋室町二ノ一 三井信託内 日本橋(24)三一八一—一九

## 役員

中央執行委員長 木村健三

加盟機関 全金融

【b、保険業】

I 生命保険

53、全国生命保険労働組合連合会(生保総連)  
千代田区丸ノ内三ノ四 千代田(27)一一〇五一九

役員

中央執行委員長 福田松三郎(全外連)  
中央執行副委員長 渋谷益左右(全生保)  
近 信男(全外連)  
秋吉次男(全生保)

書記長 山本悠夫(全生保)

結成 一九五二年一月一日

活動

一月一日 結成大会(生保内外両連合の統一は六月の全外連大会で、両連合を発展的に解消して内外総連合を結成することを決議し、全生保に協力を求めたものが、両組織を維持したまま統一する条件で一月の全生保大会で決定され、結成の運びに至った。)

54、全日生命保険労働組合連合会(全生保)  
千代田丸ノ内三ノ四 千代田(27)一一〇五一九

役員(第八回大会決定)

委員長 渋谷益左右(三井)  
副委員長 筧 行雄(大同)  
遠藤万市(日本)  
相島一雄(明治)

書記長 山本悠夫(第百)

結成 一九四六年六月四日

加盟機関 全金融、生保総連

活動

一月一二一一三日 第八回定期大会

機関紙 「全生保」半月刊

55、全国生命保険外務労働組合連合会(全外連)  
中央区京橋二ノ八 第一生命内 京橋(56)七一二一一九

役員

委員長 福田松三郎

加盟機関 全金融、生保総連

II 損害保険

56、全日本損害保険労働組合(全損保)  
中央区銀座西二ノ一 京橋(56)四二九一、七〇二〇

役員

中央執行委員長 埜 善多  
副中央執行委員長 小南弘久  
佐藤文夫  
中陸奥三

書記長 米山高秋

結成 一九四九年一月五日

加盟機関 全金融

機関紙 「全損保」週刊

日本労働年鑑 第26集 1954年版

発行 1953年11月20日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

\*\*\*\*年\*\*月\*\*日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1954年版(第26集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)